

M&Aと日本企業の成長 —クロスボーダー M&Aを中心にして—

宮島 英昭

目 次

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. いまなぜクロスボーダー M&Aが重要か 2. 日本におけるM&Aの展開 3. クロスボーダー M&Aの特徴と決定要因 | <ol style="list-style-type: none"> 4. 企業成長につながるクロスボーダー M&Aのパターンとは何か 5. 結びに代えて：クロスボーダー M&Aの課題 |
|---|--|

わが国において、M&Aが顕著に増加したのは1999年からであり、2000年代後半にはM&Aの中心はクロスボーダー M&Aとなった。近年、重要性を高めたクロスボーダー M&Aに積極的な企業はどのような特性をもつ企業か。クロスボーダー M&Aを通じてグローバルに成功している企業群は、いかにしてM&Aを企業成長・企業利益・企業価値の向上に結び付けてきたのか。本稿では、これらの点を、筆者も協力した経済産業省「我が国企業による海外M&A研究会」における討議やヒアリング、また同委員会のために行ったアンケート調査を利用しながら、検討する。

1. いまなぜクロスボーダー M&Aが重要か

2000年代半ばは、日本企業の歴史において、クロスボーダー M&Aが企業成長の重要な戦略に位置付けられた初めての時代として記憶されるかもしれない。20世紀後半を通じて日本企業の成長に対して、M&Aが果たす役割は必ずしも大きくはなかった（注1）。高度成長期は企業間の激しい設備投資競争によって実現され、1980年代か

らの対外直接投資の増加は、自動車や電機産業の工場設立などを伴うグリーンフィールド投資によって担われた。わが国で、M&Aが顕著に増加したのは99年からであり、2000年代後半にはM&Aの中心はクロスボーダー M&Aとなった。07～16年累計では、国内企業間のM&A累計額が37.4兆円であるのに対して、海外企業を対象とするM&Aは、64.5兆円に達している（注2）。

クロスボーダー M&Aの増加とともに、日本の対外直接投資におけるその比重も上昇した。



宮島 英昭 (みやじま ひであき)

早稲田大学 商学学術院 教授、早稲田大学高等研究所 所長。立教大学経済学部卒業、東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得修了、早稲田大学商学博士。東京大学社会科学研究所助手、ハーバード大学ライシャワー研究所客員研究員などを経て現職。RIETI ファカルティフェロー。主な著作は『企業統治と成長戦略』編著（東洋経済新報社 2017）、『日本の企業統治』編著（東洋経済新報社 2011）等、他著書論文多数。